

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 11 月 14 日 (2019.11.14)

【公開番号】特開 2019-135262 (P2019-135262A)

【公開日】令和 1 年 8 月 15 日 (2019.8.15)

【年通号数】公開・登録公報 2019-033

【出願番号】特願 2019-95974 (P2019-95974)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/02	(2006.01)
A 6 1 P	37/08	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	5/14	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
A 6 1 P	19/02	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/06	(2006.01)
A 6 1 P	1/04	(2006.01)
A 6 1 P	11/06	(2006.01)
A 6 1 P	1/18	(2006.01)
A 6 1 K	31/37	(2006.01)
A 6 1 K	31/7048	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	37/02	
A 6 1 P	37/08	
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	3/10	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	5/14	
A 6 1 P	17/02	
A 6 1 P	19/02	
A 6 1 P	29/00	1 0 1
A 6 1 P	17/06	
A 6 1 P	1/04	
A 6 1 P	11/06	
A 6 1 P	1/18	
A 6 1 K	31/37	
A 6 1 K	31/7048	

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

自己免疫疾患、アレルギー疾患、もしくはアトピー性疾患を処置するための組成物であって、( i ) ヒアルロナン合成を阻害する化合物、および ( i i ) 薬学的に受容可能なキャリアを含む、組成物であって、該化合物が、4 - メチルウンベリフェロンまたは 4 - メチルウンベリフェロンの代謝産物であり、該自己免疫疾患、アレルギー疾患、もしくはアトピー性疾患からは、関節炎が除かれる、組成物。

【請求項 2】

前記化合物が、4 - メチルウンベリフェロン - グルクロニドもしくは硫酸化 4 - メチルウンベリフェロンである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記化合物が、調節性 T 細胞応答を誘発するために有効である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記化合物が、FoxP3 + 調節性 T 細胞を増大させるために有効である、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記自己免疫疾患、アレルギー疾患、もしくはアトピー性疾患が、自己免疫性糖尿病、多発性硬化症、シェーグレン病、自己免疫性甲状腺炎、狼瘡、乾癬、大腸炎、および喘息からなる群より選択される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

自己免疫疾患、アレルギー疾患、もしくはアトピー性疾患を処置する必要性のある哺乳動物被験体において自己免疫疾患、アレルギー疾患、もしくはアトピー性疾患を処置するための組成物であって、該組成物は、化合物を含み、該哺乳動物被験体においてヒアルロナン合成を阻害するために有効な量で投与されることを特徴とし、該化合物が、4 - メチルウンベリフェロンまたは 4 - メチルウンベリフェロンの代謝産物であり、該自己免疫疾患、アレルギー疾患、もしくはアトピー性疾患からは、関節炎が除かれる、組成物。

【請求項 7】

前記化合物が、4 - メチルウンベリフェロン - グルクロニドもしくは硫酸化 4 - メチルウンベリフェロンである、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記化合物が、調節性 T 細胞応答を誘発するために有効である、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記化合物が、FoxP3 + 調節性 T 細胞を増大させるために有効である、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記哺乳動物被験体が、ヒト被験体である、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記ヒト被験体が、自己免疫性糖尿病、多発性硬化症、シェーグレン病、自己免疫性甲状腺炎、狼瘡、乾癬、大腸炎、および喘息からなる群より選択される自己免疫疾患、アレルギー疾患、もしくはアトピー性疾患に罹患しているかまたはこれらを発症するリスクがある、請求項 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

自己免疫性糖尿病に罹患しているかもしくは発症するリスクがある哺乳動物被験体において、膵島炎を処置する、かつ / または自己免疫性糖尿病の進行を逆転するための組成物であって、該組成物は、化合物を含み、該哺乳動物被験体においてヒアルロナン合成を阻害するために有効な量で投与されることを特徴とし、該化合物が、4 - メチルウンベリフェ

ロンまたは 4 - メチルウンベリフェロンの代謝産物である、組成物。

【請求項 1 3】

前記哺乳動物被験体が、ヒト被験体である、請求項 1 2 に記載の組成物。

【請求項 1 4】

多発性硬化症および / または自己免疫性脱髄を処置する必要性のある哺乳動物被験体において多発性硬化症および / または自己免疫性脱髄を処置するための組成物であって、該組成物は、化合物を含み、該哺乳動物被験体においてヒアルロナン合成を阻害するために有効な量で投与されることを特徴とし、該化合物が、4 - メチルウンベリフェロンまたは 4 - メチルウンベリフェロンの代謝産物である、組成物。

【請求項 1 5】

前記哺乳動物被験体が、ヒト被験体である、請求項 1 4 に記載の組成物。

【請求項 1 6】

前記化合物が、調節性 T 細胞応答を誘発するために有効である、請求項 1 4 に記載の組成物。

【請求項 1 7】

前記化合物が、F o x P 3 + 調節性 T 細胞を増大させるために有効である、請求項 1 6 に記載の組成物。